

こんにちは、ハリー です。

ビル・ゲイツという人が、パソコンの世界を変えたように、
ハリー・マーコウィッツという人は資産運用の考え方を一変させました。

彼はもともと研究の対象として「投資」を選んだ人で、
自身は投資にはあまり関心がなかったようです。
(そんな人だからこそ【投資を科学】できたのでしょう・・・)

さて、マコーウィッツの第一の功績は、リスクを計量し「数値化」したことにあります。
(例えば) ある一定期間に、株式Aがどれくらい儲かったのか、損したのかは
「結果リターン」として数値化できます。

しかし、株式Aが「どれくらいリスクーなのか」をどのように測ればよいのか？
(この難問に) マコーウィッツは「標準偏差」という考え方をを用いて答えました。

つまり、株式Aのリターンの不確かさ・・・、
リターンがぶれる「大きさ」そのものを「リスクの大きさ」として規定したのです。
たとえば、昨年3%のリターンであった株式Aが、
今年28%の驚異的なリターンを残したとしても、
これを「リスクが大きい」と認識します。
リスクとは、リターンがぶれる【大きさ】のことなのです・・・。

さて、リスクとリターンが「計量化」できれば、
リターンの効率性を測ることができます。例えば、

	リターン	リスク
株式A	10	20
株式B	10	30

だとしたら、あなたはどちらを選びますか？

(当然 Aですね) 同じリターンなら、リスクが小さい方がいいですよ。
(同じリスクなら、リターンが大きい方を選びます)
ただ単に、リターンの大きい資産を選ぶのではなく、
マコーウィッツは「リターンの効率性」に着目したのです。
(これはとても斬新な視点でした)

(また) マコーウィッツの第二の功績は、
(値動きが異なる) 資産を組み合わせることで、
ポートフォリオそのものの【リスクの大きさ】が、
「リスクの加重平均」より小さくなることを数学的に証明したことです。
(したがって、分散投資を行うことに「メリット」があるのです！)

たしかに、株式Aと相性がよい株式Bを組み合わせることは重要ですが、
もっと「大きな地図」を頭の中に置いていただきたいのです。
たとえば、株式市場Aと相性がよい株式市場Cを組み合わせる、という発想です。

あるいは先進国の株式市場と、
新興国の株式市場を組み合わせる、という視点。
資産の分散という点でいいますと、先進国の株式市場と、
先進国の債券市場を組み合わせるということもできますね。

(実は) ポイントは 単位 なのです。
たとえるなら、30センチの物差しを持つのか、
5000キロメートルの物差しを持つのかの「違い」です。

個別銘柄の組み合わせではなく、
異なった市場間の組み合わせが出来るところが、
ファンド(投資信託)の素晴らしいところなのです。